

香港植民地構造と自由

中国語学科3年社会文化コース

大徳 弘志

植民地統治下の香港

植民地のイメージ

- ・ 束縛が強くて自由がない
- ・ 搾取される



香港のイメージ

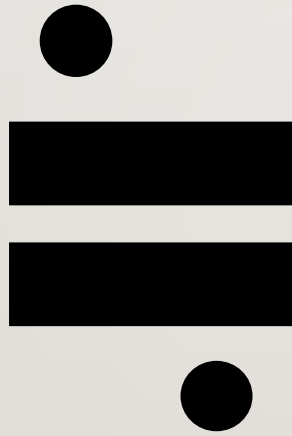
- ・ 自由
- ・ 経済が発展している



総督-GOVERNOR-



総督



君主

！国王大権

17世紀までのイギリスの君主には立法、法案の可決、議会の解散、任官、統帥権などの絶大の権力を持っていた。

議会-COUNCIL-

立法評議会

お金持ち

議長
(総督)

高官



行政評議会

社長

政府高官

議員じゃない

軍司令官

議員じゃない



マーク・アイチソン・ヤング Sir Mark Aitchison Young



- 1941年、第21代目香港総督に任命、9月に就任
- 三か月後の「香港の戦い」で香港防衛するが12月25日に投降(ブラック・クリスマス)、日本の捕虜となり、台湾や瀋陽に回される
- 日本降伏後、再び香港総督として復帰した

アレクサンダー・グランサム Sir Alexander Grantham



- 大量の難民流入による居住区の不足により、スクワッター・タワー(**徙置大廈**)を建設
- 戦災で破壊された学校を立て直し、ただし共産思想が学校に浸透させないために厳しい監視を下した
- ハンセン病患者のために病院を設立し患者らに尽力した

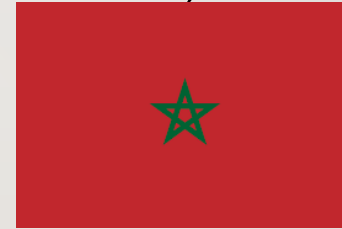
政治的権利と市民的自由-POLITICAL RIGHTS & CIVIL LIBERTIES-

- 最高点1点、最低点7点、「先進国」で5点(政治的権利)という国はない

- 香港の「政治的権利」5点 =



クウェート

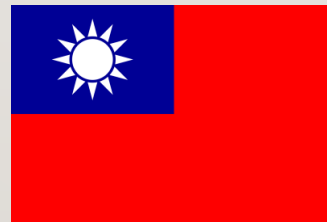


モロッコ



ベネズエラ

- 香港の「市民的自由」2点 =



台湾



韓国

民主主義の八つの条件-Democracy-



①組織を形成し、参加する自由



②表現の自由



③投票の権利



④公職への被選出権



⑤政治家が支持を求めて競争する権利



⑥多様な情報源

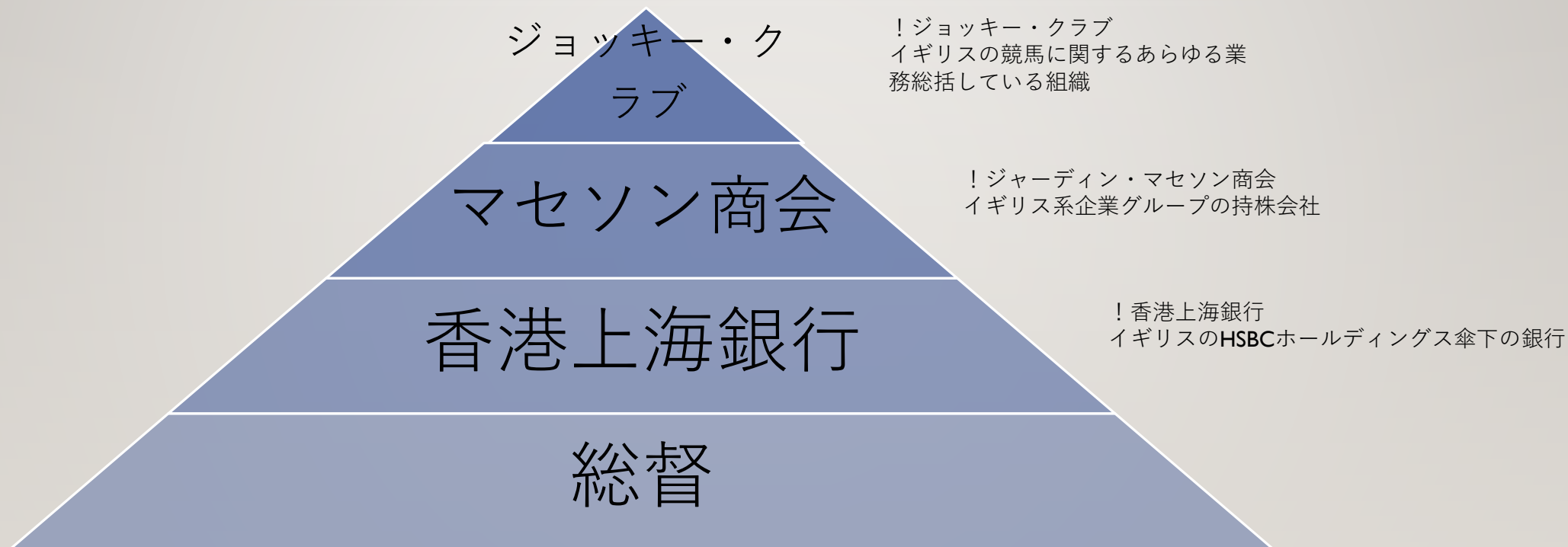


⑦自由かつ公正な選挙



⑧政策を投票あるいはその他の要求の表現に基づかせる諸制度

総督の実権-**REAL POWER**-

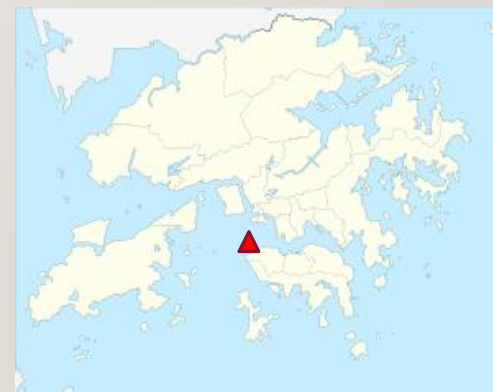


太平山頂-VICTORIA PEAK-

- 香港の観光地となっている山で「百万ドルの夜景」としられる夜景の名所である、また「ヴィクトリア・ピーク」と呼ぶ。

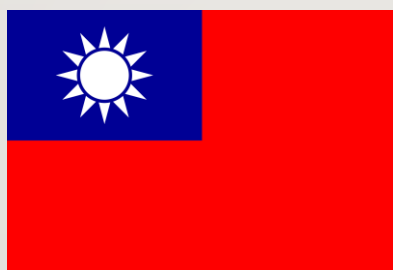
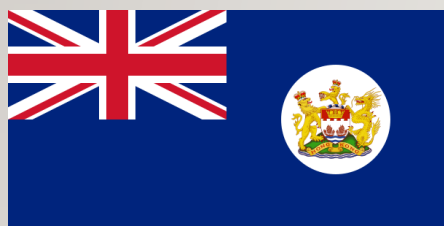


！ヴィクトリア・ピーク
イギリス人がヴィクトリア女王の名にちなんで名付けたこの山は最初は西洋人の富裕層や政庁関係者の別荘地だった、中国人が住めるようになったのは**1947年**になってからだった。



アジア四小龍-Four Asian Dragons-

- 1950年半ばまたは1960年初頭から急速な工業化や高度な経済成長を遂げたアジアの四つの国や地域を指す。



！香港の工業化

戦後香港の工業発展は宗主国の産業に打撃を与えていたから、宗主国の意向もあり香港の工業化政策はあまり進まなかった。

李嘉誠 Sir Li Ka-Shing



- **1928年6月** 広東省潮州市生まれ、日中戦争から逃れるため香港に逃れた
- **1949年** 香港でプラスチック造花工場を作り造花を売り出したところ大儲けとなった。
- **1958年** 長江実業有限公司を設立し香港最大の不動産開発業者となる。
- 総資産**310億ドル**、世界第八位の富豪

一九六七年香港暴動-Riot-

- **1966**年に中国で始まった文化大革命の影響により、李嘉誠が経営するプラスチック造花工場で発生した労資紛争が激化し、**1967**年**5**月に、暴動が九龍半島から香港島へと広がり、**5**月には公共交通機関などの一斉ストライキが行われた。
- 左派の労働者や学生を中心とするデモが活発化するなか、一部の群衆が車や建造物を燃やすなどの事態が発生した。デモは反英暴動へと発展し、鎮圧のために警官隊や軍隊を投入された。中国共産党はイギリス当局を批判し、香港市民の反英行動に対する支持を表明した。
- **8**月、香港政庁は左派の活動拠点となっていた学校や報道機関を封鎖した。これに対して、左派は街頭や公共の乗り物に爆弾を仕掛けるという反撃に出た。
- しかし、民間人の被害者が相次ぐ中、香港市民の間では治安回復を望む声が高まり、**12**月に中国の周恩来首相の香港の左派に爆弾テロ停止を呼びかけ、六七暴動は終息した。

イギリスが残した遺産-**Heritage**-



野党

VS



親政府派



「民主党」
民主派

「自由党」
保守派

「民建連」
左派

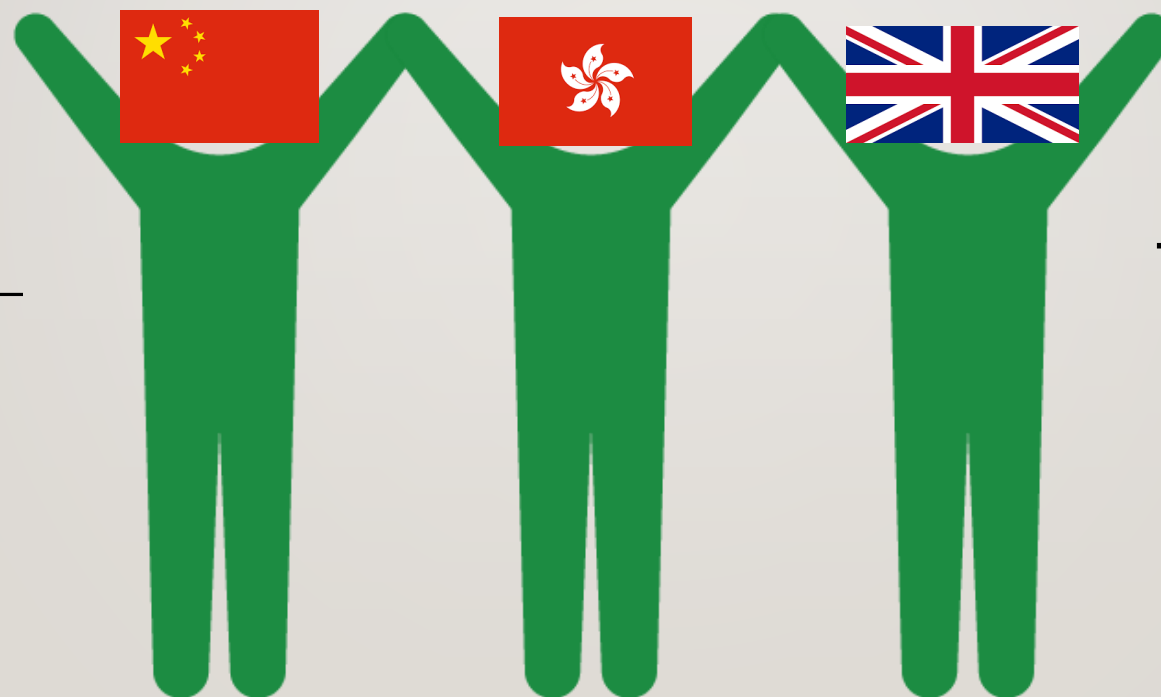
考察-Consideration-

- 今回の発表を作成するにあたって今までの香港のイメージとは裏腹に不自由な一面を見ることができた。イギリスや香港政庁は民衆を放任して彼らの好きなようにさせた一方、集団活動を厳しく弾圧・排除し血を流してまで民衆を抑え込もうちした、イギリスのご都合主義な一面の表しだろう。
- そして今、香港が自ら民主化に向けて戦っている場面に我々は直面している。香港のこれからの激動に中国のみならずイギリスだって黙っていないだろう。歴史の流れを見る限りこの二国に翻弄されてきた香港はどちらの道を辿っていくのか、あるいは自ら第三の道を歩みだすのか。時代の変換点がすぐ目の前に迫ってきている、そのとき香港はどのような姿をしているのかは我々が生きている時代に目にすることができるだろう、そしてその備えとしてこれからの香港に注目していきたいと思う。

終わり -The End-

多謝你聽我講！

感谢倾听！



Thank you for listening !